

# 精鋭きょうから熱戦

## 八戸市と南部町で アイスホッケー 青森県勢5校出場

結団式で氣勢を上げる青森県選手団IIテックルアイスハーク八戸



### IH 青森県選手団結団式 地元での活躍誓う

### 第68回 スケートインターハイ 八戸・郡山・名古屋

▶第1日◀

○アイスホッケー競技に5校が出場する青森県選手団は、テクニカルアイスハーク八戸での開始式後、結団式を行い、今大会での活躍を誓った。

式には約30人が出席した。団長を務める県高体連の花田慎会長は「慣れ親しんだリンクをアドバンテージにして、練習で培ったものを爆発してほしい」と激励。選手らは拳を掲げて、「頑張るぞ」と力強く氣勢を上げた。

1回戦で工大1との地元勢対決となる八戸商の柳町裕哉主将は「これまで負けが続いている相手だが、全国の舞台でリベンジを果たし、目標のベスト4を目指したい」と闘志を燃やした。

第68回全国高校スケートアイスホッケー選手権は22日、八戸市と福島県郡山市で開催した。競技は23

日、式では岡田正治全国高体連会長があいさつし、実力をいかんなく発揮し、世界の舞台へ羽ばたき一歩目を踏み出した。

#### 地元開催に「緊張」

○アイスホッケー競技の開始式で、選手宣誓を務めたのは工大1の古畑叶夢主将。立派な最後となる今大会を、正々堂々と最後の一分一秒まで戦い抜くことを誓うと、高らかに宣言した。

式後の取材に、古畑主将は「無事に終わって良かった」とほっとした表情を見せた。高らかに「地元開催でこれまでお世話になった多くの人が観戦に来るため、緊張している」と心境を述べた。23日は、地元対決となる八戸商との初戦。「改めて気持ちを引き締まった。しっかりと勝ちたい」と闘志を燃やしていた。

日から27日まで実施され、約1400人の選手団が参加して熱戦を展開する。初日は、スピードスケートとアイスホッケー両競技で開始式がそれぞれ行われ、全国から集まった精鋭たちがレースや試合に向けて士気を高めた。

このうち、郡山市の郡山ユラックス熱海で行われたスピードスケートの開始式では、青森県など16道府県の選手約300人が出席。福島県でインターハイが行われるのは21年ぶり3回目、式では岡田正治全国高体連会長があいさつし、実力をいかんなく発揮し、世界の舞台へ羽ばたき一歩目を踏み出した。

第2日の23日からスピードスケート、アイスホッケーとも競技開始。スピードスケートは男女5000メートル男子5000メートルの3種目を実施。八戸市と南部町の計3会場で行われるアイスホッケーは、青森県勢5校が1回戦に臨む。フイギアは24日に名古屋市内で開始式を行う。(取材班)



開始式に参加し、23日から始まる競技に向けて士気を高めたスピードスケートの青森県選手団=郡山ユラックス熱海

### スピード 青森県選手団結団式 根城(八戸西)「最後はメンタル」

○スピードスケート競技の開始式後に行われた青森県選手団の結団式では、潮川浩典高体連副会長が「各代表の責任や誇りを持ち、プレッシャーも力にして頑張してほしい」とエールを送った。

選手は開始式までに、今大会の会場となる磐梯熱海スポーツパーク郡山スケート場で公式練習を実施。5000メートル、1万メートル出場予定の根城知哉(八戸西)は「風が強いので、最後まで耐えられるかどうか重要。最後はメンタル勝負になる」と話していた。

23日の5000メートルが、本命の種目の松本匡平(八戸光華)は「焦りや緊張感を持たずに、力を出し切りたい」と闘志を燃やしていた。